

## 鹿児島県に生息する希少種(特にツル類・奄美群島生息種)の傷病個体の生息域外保全への活用

### Utilization of scarred animals of rare species (cranes · Amami archipelago animals) inhabiting Kagoshima Prefecture for Ex-Situ Conservation

落合晋作, 福守朗, 海道夢紀, 日高愛子, 前谷史恵  
伊藤綾夏, 浅井隆之, 桜井普子  
(鹿児島市平川動物公園)

鹿児島県出水市周辺に飛来するナベヅル・マナヅルや、奄美群島に生息する哺乳類や鳥類等においては、毎年一定数の傷病個体が保護されている。ツル類は出水市の保護収容施設にて終生飼育されており、奄美群島では収容施設がないため可能な限り当園へ移送している。野生復帰困難な個体であっても、飼育を継続し繁殖個体群として管理できれば域外保全としての役割を十分に果たすことが可能と思われる。そこで、保護された傷病希少種を平川動物公園に移送して飼育すること、個体を介した普及啓発を目的として活動を継続している。2014年から現在まで8種19点の搬入があった。原因は交通事故等が17例、外敵による咬傷が1例、その他外傷が1点であった。4頭収容したアマミノクロウサギについては、1頭(2016年2月収容)は2017年2月に死亡、1頭(2016年12月収容)は2017年4月に野生復帰、残りの2頭(2017年4月、2019年3月収容)は現在も治療を継続している。体重記録や採血を実施し基礎データの蓄積を行い、初知見である幼獣から成獣までの体重変化や日間増倍率 $0.21 \pm 1.31\%$ (平均±標準偏差)、成獣の日間体重変動率は $0.01 \pm 1.49\%$ (平均±標準偏差)などが把握できた。また野生復帰個体については、地元動物病院で初期治療を実施し、継続的な治療と療養を施設と人材が揃う当園で実施、回復を確認し本種にとって初事例となる野生復帰に成功した。2019年3月に収容した右眼失明のオオトラツグミにおいては、飼育記録が皆無であり基礎データの収集を継続し、本種の世界初展示に取り組んでしる。他にもリュウキュウコノハズクやサシバなども展示し、個体を通じて現地での状況を紹介する代弁者として活躍している。またツル類の導入は鳥インフルエンザの蔓延と導入時期の延期もあったが、2018年8月に出水市。調整で未実施ではあるが、現在時期を調整中であり実現に向けて動いている。現時点では実績はないが、傷病個体を用いた繁殖を目指し、将来的には域外保全を見据えた飼育と導入を継続させていきたい。併せて、世界自然遺産登録を目指す本地域での希少種や特異的な環境について普及啓発していきたい。